

テーマ: 自然

要町保育園(豊島区)

テーマを設定する

日頃より水と砂を混ぜたあそびに興味を持ち楽しんできた。昨年度より園全体でも3・4・5歳児クラスが“どろんこあそび”の日として、泥あそびを思いきり楽しめるよう設定している。園庭にある築山なども活用し、継続的に自然と触れ合い、興味関心を広げていく機会とする。

活動① アーティストワークショップ1

身体を使ってダイナミックに土ねんどで遊ぶ①

環境をデザインする

●準備した物 土ねんど200kg、ホール全面養生、保存容器

探究活動を実践する

●活動内容

- (1) アーティストの動きをまねっこ／歩きながらハイタッチ、あしタッチでコミュニケーション／音楽が止まったらオリジナルのポーズでストップ
- (2) 200kgの土ねんど登場。2人1組で土ねんどの塊をつぶす
- (3) 土ねんどで自由に遊ぶ
- (4) 全員のねんどを集めて山にする。
- (5) 一人ひとり山と一緒にポーズ／山に手形や足形など、自分の跡をつける／山にやさしくタッチ「ありがとう」

●子供たちの様子

- ・「土のおいがする」「つめたい」「ぐにゅ～」「おもいね」などの言葉があり、匂い、感触、土の重さ等に気づいていた。
- ・粘土を足に塗りつけているAちゃん。一緒に手伝うBちゃん。ジャンプで粘土から飛び出すと、大きな穴ぼこがあった。
- ・粘土の山に登るCちゃんは粘土の塊の上で恐竜のようなポーズをとっている。ここは恐竜世界の山、自分は恐竜、とイメージの広がりを感じた。

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師: 北川結(振付家・ダンサー)他1名	R6.10.1 (火)	60分程度	16人
② アーティストワークショップ2 講師: 北川結(振付家・ダンサー)他1名	R6.10.22 (火)	75分程度	20人
③ 造形遊び(自由に使える環境作り)	11月以降	45分程度	10人程度/ 20回



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・これまで体験したことのない大量の土ねんどに触れ、子どもたちがそれぞれの方法で自分のあそびを見つけていく姿が見られた。身体表現とねんどの組み合わせで、身体を使ったあそび(重い粘土の塊を運んでみる、ふみつぶす、落とす、転がす)が生まれたり、表現のイメージを広げてあそぶ姿が多く見られた。
- ・一人ひとりポーズを披露する場面では、人前に出るのが苦手な子が前に出るなど、アーティストと出会い、初めて知る身体の動かし方や表現あそびの中で心を解放し、表現力の開花が見られた子もいた。

活動② アーティストワークショップ②

身体を使ってダイナミックに土ねんどで遊ぶ②

環境をデザインする

●準備した物 土ねんど200kg、ホール全面養生、保存容器

探究活動を実践する

●活動内容

- (1)アーティストの動きをまねっこ／音楽が止まったらオリジナルのポーズでストップ
- (2)2人ペアで手をつないだまま、立つ、座る、片足、ポーズ／音楽が止まったら2人組で、3人組で、1人で、オリジナルのポーズでストップ。
- (3)2～3人組で土ねんどで自由に遊んだり、じっくり試したりする
上に乗って平らにつぶす／”恐竜”などイメージした形をつくる／ねんどを落として重量感を楽しむ...などなど
- (4)みんな壁際にならんで、各グループが作ったねんどを眺める
- (5)4グループに分かれて、順番にツアーしながら遊ぶ(ねんどの島をジャンプ／塊をみんなで運ぶ／指であとをつける／つぶさないようにまたぐ／みんなで乗る...など)
- (6)それぞれが、好きなところに行って「ポーズ！」で終了

●子供たちの様子

- ・つぶして、はがして、たたんで、またつぶす… だんだん広がるねんど島。かかとは丸い跡、つま先は5つの穴、ひざは大きな窪み…、からだのカタチが目に見える。
- ・Aちゃんが繰り返し床へ落としていたねんどボール。ズシンと落ちて、弾まない、転がらない、変形する、を味わっていた。
- ・ツアーでは、アーティストが「お互いのねんど、じっくり見てみよう」と声掛け。「たまごがいっぱいだ！」「大きな島のすぐ隣に、こんなにちいさな作品があった！」など、様々な表現に出会っていた。



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・前回の経験から、期待感を持って活動を始めることができ、より積極的にダイナミックに楽しむ姿があった。
- ・グループワークでは、前回とは違うペアで取り組んだが、ペアの組み合わせを事前に決めておいた方がよかった点は、次にいかしたい。
- ・ツアーで他のグループの作品も見回り、大小それぞれの発想に気づいたり、そこから、さらにあそびを見つけたりすることができた。
- ・上に乗ったら崩れる、不安定なねんどの上でもおもしろいポーズをするなど、身体を使った粘土とのかかわり方を知った。どんなポーズでもアーティストから「すごい！」と認められることで、安心して表現し、遊びの発想、表現の発想を広げることができていた。